

3. 修学旅行等を通じた参加・体験型学習プログラムのための学習資料のあり方

(1) 学習資料の作成の必要性和方向性

① 模擬授業実施者への資料作成支援の必要性和支援の概要

修学旅行等で北方領土隣接地域を訪れる生徒に対し、訪問の事前事後に、北方領土問題、周辺地域の自然環境や産業等の他分野の概況について学習する機会が設けられたとしても、関連情報の収集に対する生徒及び教員の負担、さらには、関連する他分野の論点を含めた学習構成の全体のイメージを把握しにくいと、生徒の自主学習が効果的に進まないことも想定される。

また、訪問後の模擬授業の実施を念頭に置く場合、発表を行う生徒（高校生）らによる情報収集や学習のみならず、発表を聞く「生徒側」の児童（中学生）にとっても、実りある学習機会とするためには、模擬授業に参加することを通じて、北方領土問題を一定程度学習することができるよう、同授業の発表資料の質を担保することが求められる。

以上の点を踏まえ、修学旅行で北方領土隣接地域を訪れる生徒、教員に対する事前事後の様々な支援の1つとして、学習資料／発表資料の作成に向けた情報収集を支援する機能、また、あらかじめ一定の学習資料の全体構成のイメージを示しておくことが重要であると考えられる。

そこで以下では、北方領土問題や関連する他分野の論点に係る情報、解説への生徒、教員のアクセスを下支えする「学習資料の素材集（案）」及び「学習資料の構成例（案）」を提示する。

② ニーズが想定される情報・資料の内容

平成20年10月に実施された内閣府「北方領土問題に関する特別世論調査」によれば、北方領土問題を聞いたことがあり、問題の内容も一定以上知っているとする者の比率は、全体の約8割に達している。また、平成21年度の内閣府「国民の北方領土問題に関する意識の分析等調査」によれば、各種メディアを通じて、7割を超える者が北方領土の返還に向けた日本政府の外交交渉を認知しているものの、占領や返還運動の歴史、旧ソ連・ロシア側の動きについては、半数程度の者が知識を有していないことが指摘されている。

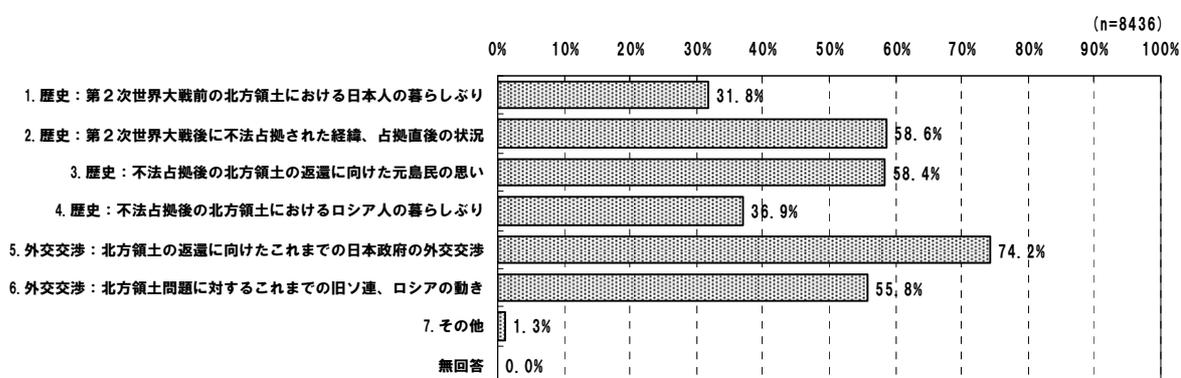
図表 V-9 北方領土問題の認知度（2008 年）

項目	比率
問題について聞いたことがあり、問題の内容も知っている	39.2%
問題について聞いたことがあり、問題の内容もある程度知っている	40.0%
問題について聞いたことはあるが、問題の内容までは知らない	18.8%
問題について聞いたことがない	1.4%
わからない	0.5%

注釈) 平成 20 年 10 月 9 日～19 日に実施。有効回収数：1,826 人。

資料) 内閣府「北方領土問題に関する特別世論調査」

図表 V-10 北方領土問題に関する知識（2009 年）



注釈) 全国 15 歳以上の男女 1 万人（登録モニター）に対するインターネットによる調査

資料) 内閣府（2010）「国民の北方領土問題に関する意識の分析等調査報告書」

このことから、学習資料の作成及び資料作成に向けた素材集の構築においては、まずは、北方領土問題や返還運動の「歴史」、「ロシア側の主張」、加えて、それらの知識の前提情報としての「北方領土問題の経緯」、「地理」に関する一般的な概論整理を行う必要性が高いと考えられる。

また、平成 21 年度調査の内閣府「国民の北方領土問題に関する意識の分析等調査」によれば、北方領土問題に関する啓発資料を見た後に、占領の歴史的経緯や戦後の外交交渉などの「歴史」に関する論点、「ロシア人の主張」等について、より詳しく知りたいと考える若年層が多いことが明らかにされている。そのため、北方領土問題や返還運動に接し、同問題に対する関心が喚起された層については、学校の社会科や公民等の授業では扱われることの少ない、個別具体的な論点、日々変化する時事問題に関する論点などの情報提供を行うことが重要となる。

以上の点を踏まえると、北方領土問題に触れたことのない人々に対する一般的な概論整理を目的とした情報提供を行うとともに、同問題に関心を抱くようになった人々には、歴史やロシア側の主張等、ニーズに応じた情報の提供を行うことが望まれる。

図表 V-11 北方領土問題について知りたい内容

【北方領土問題に関する学習教材映像を見た後の「若年層」の意見】

■歴史

＜戦後の外交交渉＞

- ・日本とロシアの意見の対立内容、外交交渉の経緯、返還後の経済的利益、自然資源の享受等について知りたい。
- ・北方領土が返還されたら、日本にどのような良い影響、悪い影響があるのか知りたい。

＜元島民の心境＞

- ・旧島民が追い出されたときの心境を聞きたい。

■ロシア

＜ロシア人の主張＞

- ・現在の住民と旧島民の子孫との住民レベルでのディスカッションを聞きたい。
- ・考えるための選択肢が欲しいため、北方領土問題を巡る様々な意見を知りたい。

【北方領土問題に関する学習教材映像を見た後の「中学生」の意見の概要】

■歴史

＜不法占拠の歴史＞

- ・北方領土にロシアが攻めてきた背景や、北方領土・北方領土問題を巡る歴史、日本とロシア間の国境を取り決めてきた条約の内容など、北方領土問題の背景についてより詳しく知りたいと感じている生徒が多い。

＜戦後の外交交渉＞

- ・領土交渉の過程・現況を詳しく知りたいという生徒も多い。
- ・いつになったら解決・返還されるのか、なぜ返還されないのかなど、返還までに長い年月がかかっていることについて疑問視する意見や、どうやったら返還されるのかという返還に向けた解決方法を知りたいという意見もある。

■返還運動

＜返還運動の変遷＞

- ・北方領土を返還するための運動や、四島交流事業の内容を詳しく知りたいという生徒も多い。

■ロシア

＜ロシア人の主張＞

- ・日本の主張だけでなく、ロシア側の主張も知りたいと感じている生徒が多い。
- ・返還されたら現在住んでいるロシア人はどうなるのかという、ロシア側の立場に立った意見も見られる。

■地理

＜自然、動物＞

- ・動物や自然についてより詳しく知りたいという意見がある。

■生活・産業

＜戦後の暮らし＞

- ・現在、北方領土においてどのような人がどれくらい、どのような生活をしているのかについて詳細に知りたいという意見がある。

資料) 内閣府 (2010) 「国民の北方領土問題に関する意識の分析等調査報告書」

(2) 学習資料の作成

① 学習資料の素材集（案）について

以下では、北方領土問題の解説図書、北方領土返還運動に関する啓発資料を対象に、生徒や教員がそれらの資料を閲覧することによって得ることができる情報を整理し、「学習資料の素材集（案）」として提示する。

(1)で整理した背景やニーズを踏まえると、「素材集（案）」は、「一般的な概論整理」と「個別具体的な論点の解説」という二つの異なる側面を併せ持つものとなる。そのため、地理／生活・産業／歴史／返還運動／ロシア／漁業の6分野から、参考図表1に示すように既存資料の掲載情報を整理するとともに、必要な時に必要な情報が掲載されている資料を一覧的に見出すことができるようなフォーマットを構築した。

また、模擬授業を念頭に置く場合、発表資料に現地の写真や地図等を引用することが想定される。しかし、どのような分野の写真、地図等が、どの資料に掲載されているかを模擬授業実施者が即座に把握することは極めて困難であり、そのことが学習資料の効率的・効果的な作成を阻害している面も否定できない。よって、以下に示す「素材集（案）」では、上記に加え、写真、地図、統計データの掲載有無に関する情報も、併せて一体的に整理した。

図表 V-12 学習資料の素材集（案）の内容

分野	概要
1. 地理	位置、面積、距離
	自然、動物
2. 生活・産業	戦前の暮らし
	戦後の暮らし
	産業
	生活・社会基盤
3. 歴史	開拓の歴史
	国境線の変化の歴史
	不法占拠の歴史
	戦後の外交交渉の経緯
	元島民の心境（元島民の高齢化も含む）
4. 返還運動	返還運動の変遷
	交流事業
5. ロシア人の主張	
6. 現在おきている問題（だ捕など）	

② 学習資料の構成例（案）について

①で作成した「素材集（案）」の対象6分野について、既存資料に掲載されている情報を細分化／棚卸し、「分野－中項目－小項目」に論点整理することで、分野ごとに参考図表 2 に示す「学習資料の構成例（案）」を作成した。

先述のように、模擬授業を念頭においた学習資料の作成においては、発表を行う生徒に加え、それほど北方領土問題に関する知識のない、発表を聞く側の生徒にとっても意味のある学習機会とするため、まずは、北方領土問題の一般的な概論を広く押さえた構成を意識することが重要である。その上で、参考資料 2 に示した分野の中から、模擬授業を行う生徒の関心に応じていくつかの分野を深掘りした資料を作成することにより、発表を聞く側の生徒が北方領土問題や返還運動に関する体系的な知識を習得することができるとともに、発表者の新たな興味関心の喚起にも対応する資料の作成過程を形作ることができると思う。

図表 V-13 学習資料の構成のイメージ（例）

1. 北方領土とは？ 【一般的な概論整理】
＊北方領土の位置、本土からの距離
＊北方領土の気候と動植物
＊現在の北方領土の状況と居住するロシア人の生活
2. 北方領土の歴史について 【個別具体的な論点／発表者の関心領域】
＊国境線の変化の歴史
・国境線の歴史
・現在の法的根拠
＊不法占拠の歴史
・不法占拠の経緯
・法的側面、人道面等不法占拠の問題点の整理
＊戦後の外交交渉の経緯
・外交交渉の経緯
・これまでになされたロシアとの合意
＊元島民の心境（元島民の高齢化の問題も含む）
3. 北方領土返還運動について 【個別具体的な論点／発表者の関心領域】
＊返還運動の変遷
・返還運動の始まり
・返還運動の広がり
・北方領土の日
＊交流事業
・元島民による訪問事業
・ビザ無し交流事業

(3) 今後の課題

■ 学習資料の素材となる北方領土問題啓発資料の充実や関連情報の整理、発信力の強化

「学習の素材集（案）」として示した参考図表 1 をみると、「ロシア人の主張」や「現在起きている問題（だ捕など）」に関する情報は、既存資料ではほとんど扱われていないことが分かる。また、特に北方領土問題に関するロシア政府の主張やロシア国民の意識については、内閣府や関連機関の調査報告書の中で記載されているものも若干あるものの、北方領土問題について学ぼうとし始めた生徒や教員が、必ずしも容易にアクセスすることができるものではない。

しかし、前者の「ロシア人の主張」は、先述のように、人々の関心が高い論点である。そのため、北方領土学習を推進していく上で、これらのニーズに対応する分野の情報整理、発信力の強化が今後の課題として挙げることができる。

■ 知床世界自然遺産と一体的に整理した北方領土の自然資源としての価値に関する資料の充実と発信力の強化

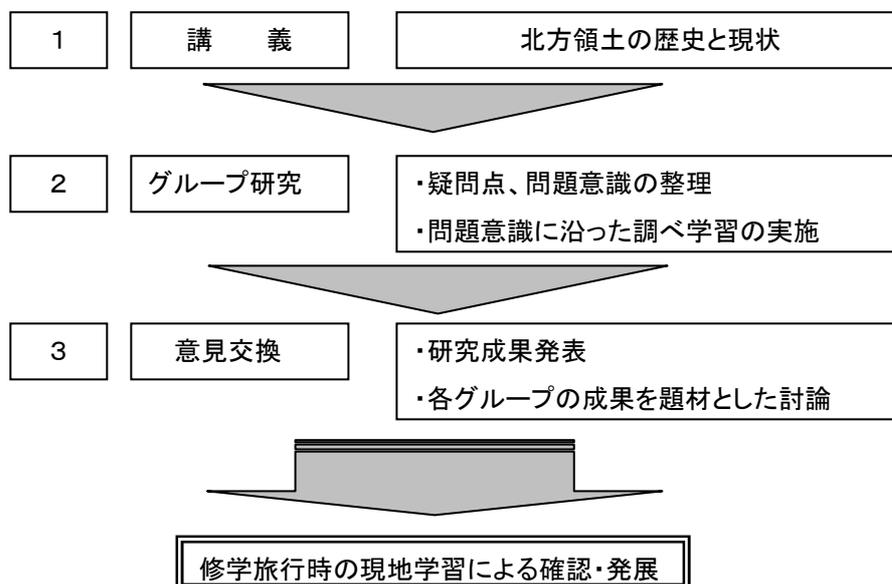
北方領土隣接地域においては、知床地域が世界自然遺産として登録されており、修学旅行における学習対象としてのアピール性が高い資源として知られているが、北方領土についても、豊かで貴重な自然資源に恵まれている。このため、北方領土の自然資源としての価値について、知名度の高い知床世界自然遺産登録地と一体的に整理した学習資料の充実と発信力の強化を図り、その学習の促進を図ることが期待される。

■ 学習資料の素材や構成例の事前・事後学習への活用の促進

「学習資料の素材集（案）」、「学習資料の構成例（案）」は、主として事後学習の成果を活用した模擬授業の実施を想定して検討、整理したものであるが、修学旅行で北方領土隣接地域を訪問する際の事前・事後学習の資料としても活用が想定される。

こうした活用を促進するために、今回整理した資料を効果的に使用した、総合的な学習の時間を活用した北方領土学習の進め方を、教育関係者の意見を取り入れつつ検討、作成し、普及していくことも今後の検討課題として、取り組むことが望ましいと考えられる。

図表 V-14 総合的な学習の時間を活用した北方領土学習のイメージ（例）



※ 1～3の各段階で1～2時限での実施を想定